

「Logical English Reading の実践事例紹介」

1. はじめに

本教材は高校3年生の選択授業のひとつである放課後講習において導入しました。この講習では、教員が生徒の状況に合わせてテーマを決めて実施します。講習の開設にあたり、課題意識として、自由英作文や英検の面接試験などで自分の意見を明示し、論理的な理由付けをすることが難しい生徒が多いように感じていました。そのような力は受験だけではなく、社会に出た後に生きていくために必要な力だと考えているので、在学中に養いたいという思いがありました。

本来であれば、学年全員を対象として、ロジカル・クリティカルリーディングや論理的に意見を発信する力を身に付けさせるような授業を行いたいところです。しかし、受験を控えた生徒は、志望校の受験に必要・不要で授業への参加度を決めてしまう傾向があるため、希望者対象の本講習にて『Logical English Reading 3』に基づいたディベートベースの授業を実施しました。2023年度の受講者は6名。少人数だったからこそ、教員も生徒もさまざまな試みに挑戦できたと考えています。

2. 教材の特徴や構成について

文法力・英作文力の向上と社会問題や他分野にまたがる知識の増進、さらにトピックに対して生徒が自分の意見を構築し、論理的な思考に基づいてアウトプットすることを講習の目的としました。論理的思考力の向上に焦点を当てたテキストがなかなかない中で、本書は本講座にぴったりだと感じています。

『Logical English Reading』には、各 level につき8つのトピックが収録されています。上級の level3 では、「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきか」「使い捨てプラスチックは禁止すべきか」「SNSは益よりも害をもたらすか」「宇宙開発は中止すべきか」「児童労働を容認すべきか」「日本に女性政治家のアフーマティブ・アクションを導入すべきか」「ベーシックインカムを導入すべきか」「積極的安楽死を日本で合法化すべきか」と、身近な話題からSDGsまでさまざまなトピックを扱っています。

本冊は、Warm Up!・Listening Practice・Dictation Practice・Reading Practiceの4要素で構成されています。Warm Up!では事前情報なしでトピックに対する自分の賛成・反対意見とその理由を日本語で答えます。Listening Practice・Dictation Practiceでは、トピックについての音声を聞き、内容一致の問題や英単語の穴埋めをします。Reading Practiceでは、トピックの情報や賛成・反対の根拠が含まれた260words程度の英文読解と2問の設問に回答します。それぞれ賛成・反対意見をサポートする具体例や、筆者の意見に対する反論を選択させる形になっています。

別冊ノートには、語彙の確認や論理展開を表す語句の役割・意味の紹介があります。Writing & Speakingのセクションは、Assertion（主張）・Reason（理由）・Example（例／説明）、Assertion（再主張）の論理構成でライティングができる形式となっています。生徒は読解した内容をもとに意見を述べる自由英作文にも取り組めるので、発信力の向上につながります。

3. 実践事例

1回の授業50分で1トピックを扱いました。講習は全8回なので、本講習で1冊を終了するペースです。新しい試みであり、また生徒に楽しみながら参加してほしいという思いがあったので、予習は課さず、生徒が主体的に取り組める環境づくりを心がけました。

Warm up!ではトピックへの知識・理解度を日本語によるディスカッション形式で確認します。Listening Practiceで本文をリスニングしてトピックについての情報を得て、内容を把握し、真偽判定問題を解きます。Reading Practiceでの本文読解を通して、分からない単語や論理展開の確認をします。その後、設問を通して、トピックに対する賛成・反対意見への思考を深め、「自分だったらどう考えるか」を別冊ノートに英語で

書きます。授業後は、別冊ノート参照しながらロイロノートに英作文を書いて提出し、次の授業で添削したものを返却し、フィードバックを行いました。

授業の冒頭、生徒が持っている情報を日本語で書き出してまとめる Warm up!では、どの生徒も同じ意見になる傾向が見られました。それが、Reading 後のディスカッションでは意見が分かれることがしばしばありました。例えば「コンビニエンスストアの 24 時間営業を禁止すべきか」では、6 人中 5 人が深夜営業に賛成、1 人が反対意見を表明しました。賛成理由としては、「便利」「いつでも買い物ができる」などでしたが、「客が来ないのに開けているのは電気の無駄遣いだ」という反対意見が出ました。その後、ディスカッションを重ねることでさらに意見が分かれ、「深夜に開けると危険」「電気代が経営の負担になる」といったマイナス意見が出たり、逆に「危険があったときにすぐ駆け込める」といった安全面・安心感での主張が出るなど、多様な側面から考え、意見を構築できたようでした。講習全体を通して、生徒の主体性やモチベーションの向上、物事について考えたり興味を持ったりするきっかけになったと感じています。

希望者対象の放課後授業なので数字上の評価は付けませんでしたが、授業中に生徒を褒めることを意識的に行いました。ディスカッションの中でいろいろな意見が出てくる度、「いい着眼点だね！」などと必ず生徒を褒めることで、生徒が安心して発言できる環境づくりを行いました。

生徒の英作文については、大学入試を外部検定で受験する生徒も多くなっているため、英検対策として英検 2 級の 80 語から準 1 級の 120 語程度の間で書くように指導しました。添削時に文法や論理展開などを指摘することで文法力やライティング力の向上につながるようにしました。

4. 終わりに

本教材は、文法力・英作文力の向上と社会問題などの知識の増進、生徒の論理的思考力や意見構築力を鍛えられる教材です。

これまで使用してきた英文読解の問題集は、内容一致の問題が主流でした。内容一致問題であれば単純に本文に記載されている内容を選択肢から選ぶに留まりますが、本冊の Reading Practice での問いは、本文で主張されている意見やロジックを理解していないと回答ができないものになっています。「本文の意見と同じロジックの具体例を 1 つまたはあるだけ選ぶ」や、「本文の意見に反論するにはどのように伝えればよいか」など、内容理解に加え、思考力が必要となります。

希望者対象の選択授業で、少人数での授業だったため、生徒同士がトピックについて意見交換をする機会を毎回設けることができました。他の生徒の意見を吸収しながら自分の考えを構築していく機会になった様子です。さまざまな思考パターンや論理展開を知り、さらには自分の意見をまとめるという最終目標にリンクできる教材だと感じました。

今回はアウトプット活動が英作文に留まりましたが、英語によるディスカッションといったスピーキングの活動も少しずつ取り入れたいと考えています。今後は、高校 1 年生には Level 1、2 年生には Level 2 を、といった形で、適切な時期に適切な教材を採用できればと考えています。

プロフィール

毛塚 邦知 けづか くにとも(山脇学園中学・高等学校 英語科教諭)

山脇学園に 2004 年度から着任し、現在教員歴は 19 年。同校では留学や語学研修の担当にも長年従事してきた。生徒に論理的思考力や社会とのつながりを学んでほしいという思いから、英語学習のみならずさまざまな視点を授業に組み込んでいる。趣味は料理とダイエット。最近は盆栽と銭湯巡りに興味を持ち始めた。